



神奈川県立厚木高等学校同窓会

新潟戸陵会たより

(第2号 平成20年2月19日発行)

ここ数年は暖冬気味でしたが、この冬は厳しい寒さが続いています。それでも時折の日差しには、春到来の気配が感じられるようになりました。みなさんにはお変わりもなくお過ごしのことと思います。

新潟戸陵会の発足を機に、情報交換のために新潟戸陵会のたよりを時折お届けできればと思い、昨年11月に第1号をお届けしました。今回の第2号では、先週厚木で次期同窓会役員選考委員会があり、出席してきましたのでその報告をいたします。

新潟支部からの役員選考委員選出

今年と同窓会役員（任期3年）の改選期です。前回から役員選考委員会が次期役員候補者の選出おこない、総会に提案して承認を得ることに規約改正されました。その選考委員会は各支部から推薦された選考委員で構成されます。昨年11月に同窓会本部から推薦依頼があり、みなさんからは葉書にて回答いただきました。10名の方から返事がありまして、青木が担当させてもらうことになりました（その確認は19回卒土川幸三さんにお願ひしました）。

役員選考委員会開催さる

25支部から委員が集まり、2月16日（土）にロワジールホテル厚木で選考委員会が開かれました。互選で委員長には杉田泰繁さん（14回卒・厚木連合）、副委員長には廣木孝幸さん（19回卒・伊勢原）と落合廣さん（15回卒・御所見）が決まりました。

各支部から役員（会長および副会長）候補者の推薦を

今回決まったことは、

- 1) 次回は3月1日（土）に開催。
- 2) 各支部からの候補者があれば、それまでに推薦してほしい。
- 3) 選考委員会で案を絞り、6月の総会に提案、承認を受ける。

の3点です。

したがって、もし候補者などご意見があれば大至急お知らせください。それを新潟支部として検討のうえ、3月1日に間に合うように委員会に提出したいと思ひます。具体的に推薦者がない場合には委員会（長）案に賛同の形になる可能性が高いですので、その点あらかじめお含みおきください。

3年前の改革までの会長は、一人の方が留任に留任を重ねて10年、20年と務

めていました。ですから創立 108 年なのに、現小澤会長が 6 代目でした。そこで活性化が必要とのことで、「任期 3 年で再選まで」となったとのことです。現小澤会長は 1 期 3 年が終わるわけですが、いろいろ改革が進みつつあるとのことでした。

小澤澄男会長，役員みなさんにも挨拶

今回厚木へ行ったもうひとつの目的は、同窓会本部のみなさんに挨拶することでした。小澤会長をはじめ担当の役員の方とは、これまで電話やメールだけでしたのですが、今回初めて直接お会いしました。これまでのお礼の挨拶と今後の支援をお願いしました。小澤会長からも新潟の同窓のみなさんにくれぐれもよろしくとのことでした。

執筆のお願い

本部会報の担当の方から、次号の会報への支部からの原稿を頼みますとの話がありました。そのときには会員みなさんがお持ちの話題を是非原稿にしてほしいとのことでした。もし本部から依頼がありましたら、順番に書いていただくのが一番だと思いますので、是非ご協力ください。

かたい話はこれくらいにして，こんなことも・・・

1) 野球少年憧れの先輩に会いました

厚高はむかし野球部が強かったです。わたしは南毛利でしたので、少年のころ友達と一緒に時々野球部の練習を見に行きました。当時の投手は稲泉さんといいました（稲泉卓・3 回卒）。野球少年の憧れの的でした。稲泉さんは横浜市大に進まれ、神奈川の大学リーグでも「投手で 4 番」の大活躍をされました。役員選考委員会でその稲泉さんに会いました。そしてしばらくの間、当時の話をなつかしくしました。現在大和市にお住まいでとてもお元気です。厚高野球部 OB 会の会長もされていて、夏の県予選にはよく応援に行かれるそうです。

2) 9 回生集まる

委員会のあと 9 回生の幹事を中心に、10 数名が集まり歓談しました。「折角新潟から来たのだから」（これは飲み会をするときの一番いい理由付けですが、友人の気持ちをうれしく受け取りました）と幹事が計画してくれました。楽しい時間を過ごしました。しかし、これには次のような宿題が付いていました。

3) 大変だ！みんなが新潟へやって来る

そのときに夏になったら幹事仲間で新潟旅行を計画しているとの話が出ました。まだ具体的ではないのですが、これから案作りに協力することになりました。はたして何人くらい来るかわかりませんが、「そのときに新潟の同窓生の皆さんと是非一緒に席をお願いしたい」との申し出がありました。もし計画が具体的になりましたら、連絡を差し上げたいと考えています。気の置けない仲間ですので、是非ご一緒ください。

あふり

みなさんからのニュース、近況、写真、話題など、お気軽にお寄せください（青木宛）。順次使わせていただきます。今回は、再びの青春を謳歌しておられます山岳部OB・佐々木健さん（15回）の冬山写真をお楽しみください。



「海側から見た火打焼山」

こんな清冽な雪山を見ると、山に縁のない人が「どうして寒い冬山に登るの？」とたずねるのは愚問だとよくわかります。



「菅名岳・寒九の水汲み」

寒九（寒に入って9日目）に雪の中で汲み上げた清水で銘酒「菅名岳」を仕込む。いまや五泉の名物行事になりました。さあ、今年の出来はどうか？ 新酒が待ち遠しい。



「角田山のカタクリ」

暖かい陽射しの春がすぐそこまでやってきています。厳しい冬ももう少しです。どうぞみなさんお体にお気をつけて元気にお過ごしください。